

## 事業再評価シート

事業名	畑地帯総合整備事業		
箇所名	縄瀬	市町村名	都城市（旧高崎町）

実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 交付金 <input type="checkbox"/> 県単		
事業期間	採択年度	再評価年度	完了予定年度
	H22	R元	(H27) R2
事業進捗	全体事業費 (百万円)	既投資額 (百万円)	進捗率 (%)
	(682) 677	571	事業費 84.3 用地 87.9
再評価の概要	対象選定理由		事業効果(B/C)
	事業採択後10年経過		(1.16) 1.12
			対応方針原案
			継続

## 全体計画

本地区の受益地(A=48.0ha)では露地野菜(甘藷・里芋・ごぼう・ホウレンソウ)、飼料を中心とした営農がなされているが、天水頼りであり年間を通じた計画的な水利用ができず生産性の向上を阻害しているため、本事業により畑地かんがい施設を整備し、併せて農道・排水路整備を行い、干ばつ防止・走行経費節減・水食防止を図ることにより、農業経営の安定向上を図ることを目的とする。

## 事業概要

畑地かんがい 48.0ha (水路延長11.2km)  
農道 2.7km  
排水路 0.25km

## 事業目的

- 他事業との関連性
- ・国営かんがい排水事業都城盆地地区（昭和62年度～平成22年度）
- 対象事業の目的、必要性
- ① 安定的な農業用水の確保による生産性の向上
    - ・干ばつ被害の防止（発芽の不揃いや生育不良、枯死や萎れ、品質低下など）
    - ・営農労力の節減（農業用水を確保するための労力の節減など）
  - ② 農道整備による農作業の効率化と品質の確保
    - ・地区内の農道は幅員が狭く農業車両の離合ができない状況（大型農業機械の搬入が困難）
    - ・舗装がされていないので路面状態が悪く作物運搬時に荷傷みが発生している（品質低下）
- 事業を継続する必要性
- ・受益農家の高齢化が進んでおり、離農による農地の荒廃が懸念されることから、担い手への営農の継承が課題。
  - ・しかしながら条件の悪い農地は借り手がいないため、畑地かんがい施設や農道などの基盤整備が必要。
  - ・地区内の担い手農家は従来の作物に加え、畑地かんがい用水を利用してショウガなどの新規作物導入に取り組むなど、意識改革も進んでおり地域の発展が期待されている。
  - ・残事業量については、令和2年度に事業完了する予定であることから事業の継続が不可欠。

## 事業の進捗状況

### ○現在の事業進捗（令和元年度末予定）

- ① 畑地かんがい ～ 41.5ha (86.5%)
- ② 農道 ～ 853.0m (31.6%)
- ③ 排水路 ～ 100.0m (40.0%)

### ○整備効果の発現状況

- ・水利用を始めた一部地域では安定的な水利用により収益性の高い農作物が導入されている。
- ・農道が整備された一部地域では、農作業の効率化や農作物の品質の確保が図られている。

### ○今後の事業進捗の見込み

令和2年度完了予定

### ○事業が長期化している理由

農道整備に伴う用地買収について、境界問題や相続未登記農地による買収困難地が多数存在していた。

このため、計画路線を変更することにより対応可能な路線については設計を見直す必要が生じた。また、計画路線変更が困難な路線については、用地買収交渉に期間を要したため。

## 社会情勢等の変化

### ○事業を取り巻く社会情勢の変化

- ・高齢化及び担い手農家の不足
- ・農業農村整備事業予算の減少

### ○受益者の意識

本地区においても農家戸数減少や高齢化の進行などによる農業生産力の低下が懸念されているが、担い手農家への農地の集積を行うための条件整備を強く望まれていることから、畑地かんがいなどの基盤整備が必要となっている。

## 事業効果の分析

### ○費用対効果

費用対効果は、1.12である。

### ○事業を継続することの事業効果分析

- ① 畑地かんがいや農道の未整備箇所を実施することにより、農業用水の安定的供給や農産物の品質確保を図ることができる。
- ② 関連事業である国営事業の効果が発揮できる。

### ○様々な事業効果

事業の費用対効果で算定されている効果以外にも、本事業を実施することにより農業生産の上で様々な効果を発揮している。

- ① 茶園において、霜の害から防ぐ効果
- ② 降灰を農作物から除去する効果
- ③ 殺菌剤塗布等の防除効果
- ④ 住民の安全を守る防火用水として活用
- ⑤ 家畜伝染病発生時の消毒用水として利用

## コスト縮減

- ① 再生資材の積極的な活用（再生クラッシャーラン、再生アスファルト）
- ② パイプラインの道路下の埋設深を浅く設定（m当工事費縮減率：△12%）

## 代替案の可能性

畑地かんがいの代替として、台地間の水田用水の転用や地下水利用が考えられるが、地区の用水量や水圧を確保することは不可能であるため、代替案の可能性はない。

## 対応方針

継続

位置図（管内図）

県営畑地帯総合整備事業 縄瀬地区 位置図

